

平成28年度 学校自己評価システムシート（県立久喜特別支援学校）

目指す学校像	児童生徒の社会的自立の力を育む学校
--------	-------------------

重点目標	1 教育支援プランに基づく授業の充実と児童生徒が達成感を得られる授業づくりを進める。 2 社会的自立に向けて、一人一人のニーズに応じた指導を進めるため、高等部を中心に教育課程の改善を進める。 3 共生社会の実現に向け、教職員の専門性を生かした組織的な地域支援や交流を進める。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価								学 校 関 係 者 評 価
年 度 目 標					中間評価 (10月1日現在)	年度評価 (1 2 月 2 0 日 現在)		実施日 平成29年 2月 2日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	進行状況の整理等	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	・児童生徒の適切な実態把握に基づいた支援プランの作成と、保護者への十分な理解のもと、指導に努めている。今年度「障害者差別解消法」が施行され「合理的配慮」を踏まえ、障害特性の理解とそれに応じた質の高い支援を行う必要がある。あわせて、教職員の専門性向上もさらに求められている。	教育支援プランにそった授業実践と専門性の向上	①児童生徒の個々の実態を踏まえた教育支援プランの作成と、支援や指導のために学校と家庭が十分連携を図る。 ②児童生徒個々の「良いところ、できる力」を伸ばすための授業実践を行う。 ③教職員の専門性の向上に向け、研修を実施し積極的な参加を促す。 ④学校行事等の準備や児童生徒への指導を計画的かつ安全に行う。	①児童生徒の個々の実態を踏まえ、教育支援プランの作成、保護者との共通理解を図れたか。 ②一人一人の児童生徒に、達成感や成就感を味合わせる授業実践ができたか。 ③計画的に研修会等を実施し、教職員の積極的な参加や専門性の向上が図られたか。 ④学校行事等の準備や児童生徒への指導を計画的かつ安全に行えたか。	①個別面談や日々の連絡帳、電話連絡等を通して、支援プラン作成を中心に緊密に保護者連携を行っている。 ②③研究部や自立活動部が各学部で校内研修を進め、教職員個人の研修も参加環境を整備し前年比3倍と意欲向上につながった。 ④各学部が計画通り実施しており、次年度計画も進めている。	今年度「教育支援プランにそった授業実践と専門性の向上」の項目は保護者アンケートで約99%ができており高い評価が得られた。 ①年間を通して面談・電話連絡等丁寧に行い保護者と連携し共通理解を行った。 ②③各分掌委員会で研修会を昨年より多い9回の全体研修会の機会を持ち、教職員個人の研修会参加も前年比3倍と大きく伸び、専門性向上につながった。 ④各種行事が計画通り安全に実施できた。	A	今年度同様に児童生徒の実態把握に努め、保護者との連携を十分図りながら、引き続き保護者アンケートでも懸案事項としてあった「児童生徒の障害特性に合わせた授業づくり」を継続して行っていく。そのためにも教職員の専門性向上とその具体的方策を検討していく。
2	・昨年度、高等部は下校時間の繰り下げ、授業時数を増加した。作業学習についても、生徒の障害に応じた作業班を増設し、指導を実施した。生徒の障害の実態と教育的ニーズの多様化に対応し、今年度より教育課程を改善し、今後も障害の状態とニーズに応じた教育課程の検討を継続的に行っていく。	生徒のニーズに応じた高等部教育課程の実現と各学部の教育活動の検証	①高等部において改善した教育課程を円滑に実施する。 ②作業学習並びに課題別学習において、障害の状態に応じた適切な学習活動を組み立てていく。 ③障害の状態とニーズに応じた教育課程を継続的に検討する。 ④教育課程の改善を受け、学校全体としての教育活動の再検証を各学部で行っていく。	①高等部において改善した教育課程を円滑に実施できたか。 ②作業学習並びに課題別学習において、障害の状態にあった学習活動が実施できたか。 ③新たな教育課程の実践と編成について、教育課程検討委員会を中心に検討できたか。 ④教育課程の改善を受け、各学部でこれまでの教育活動を検証できたか。	①②今年度からの高等部教育課程は概ね円滑に実施しており、今後さらに検討を重ねて可視化を行っていく。 ③教育課程改善に伴う評価反省は年度末に向けて行い、それを基に検証を行う。 ④高等部の改善を受け各学部が学部目標含めこれまでの教育活動を検証していく。	生徒のニーズに応じた教育課程改善については90%ができておりと昨年より高い評価が得られた。 ①②今年度の高等部教育課程は作業学習の班編成や課題別学習の改善等、より実態に応じた指導を実施した。 ③これまでの実施状況を踏まえ、来年度も高等部の教育課程改善に向けて一般学級の教育課程を複数化する方向で進めている。 ④各学部でこれまでの教育活動の検証が進められ、次年度以降の取組に反映させていく。	A	今年度は高等部を中心に生徒のニーズに応じた教育課程改善を実施できた。次年度は更に複数の教育課程を円滑に実施できる環境づくりと取り組みを保護者にご理解いただくために、全校的に可視化していく。また各学部が引き続き教育活動の検証を踏まえての改善を検討していく。
3	・学区内小中学校を中心に特別支援教育コーディネーターによる教育相談等の支援を今後も継続してセンター的機能を十分に果たし、共生社会の実現に向けた支援や交流などを通して積極的に情報発信を行う。	共生社会の実現に向けた地域支援と交流の充実	①学区内の学校や地域への支援においては、相手校の状況を把握しながら、より効果的な支援を実施する。 ②児童生徒のニーズに応えた支援学習を実施するとともに、交流学習の事前学習なども継続的に実施する。 ③地域人材の育成ならびに交流を積極的に行う。	①相手校との相互的な情報交換等を行い、効果的な支援が実施できたか。 ②支援学習や交流学習を通じた出前授業等で、特別支援教育理解に結びつける地域支援が実施できたか。 ③地域人材（ボランティア等）との交流ができたか。	①②コーディネーターを中心に学区内支援を行い支援学習は前年比1.5倍、学校間交流も交流委員会を設置するなど、各学部が円滑に実施している。 ③小中学生部中心にボランティアの協力を得て交流を図れている。介護等体験生の新規人材確保も行っている。ホームページについては毎日の給食更新をはじめ、更新回数は昨年比1.7倍、一昨年比4倍と各部署が適時情報発信を行っている。	今年度は地域支援と交流の充実に向け新たな取組も行った。 ①学区内相談・支援児童生徒数は12月現在で約140名で継続的に丁寧な相談・支援が実施できた。 ②支援学習も実施児童生徒数が増え円滑に実施した。また今年度「みんな幸せ 共生社会 県民の集い」に高等部全体で参加し特別支援教育理解に結びつく地域交流となった。 ③ボランティア養成講座を開催するなど地域人材の育成と交流を行った。	A	学区内におけるセンター的機能の充実と支援学習の充実、また本校の情報発信を引き続き積極的に行っていく。また高等部を中心に久喜市民まつりへの参加や共生の集いへの参加など、多面的に協力をいただくことも大切。幅広い世代を、学校の教育に生かしていただきたい。

学校関係者からの意見・要望・評価等

面談や連絡帳を通して学校の様子を知ることができ、保護者としてとても助かっている。今後も保護者との連携を大切にしていきたい。親にとって就学時の学校選びで迷うことがあるので、特別支援学校の取り組みや特別支援学級との違いなど、分かり易い説明や相談ができる場面があると良いのではないかと。教職員の専門性向上は重要であるが、教職員に過度の負担とならない工夫が必要である。

高等部の教育課程改善によって教育内容や支援の幅が広がることを期待できる。今後も継続して教育課程改善に取り組んでいただきたい。また教育課程改善の取り組みが小学部段階から広がることを期待したい。それぞれの学部で取り組んでいる研修を教育活動・実践に大いに役立てていただきたい。

コーディネーターを中心に学区内における地域支援と地域交流は積極的に進めていただいている。学校周辺も地元の方や団塊の世代の方達がいる。ボランティアだけでなく、多面的に協力をいただくことも大切。幅広い世代を、学校の教育に生かしていただきたい。

